適正な価格形成に関する協議会
第4回野菜ワーキンググループ 議事要旨

令和7年6月18日（水）

○全国農業協同組合連合会 鈴木 園芸部長

とりまとめ頂いた基本的な考え方については、認識と大きな差異はなく異論はない。本会は、生産者団体の一員として可能な限り参画・協力を行うという前提で、お願い事項について意見したい。

コスト指標の作成や公表の実現に向けては、前回WGまでの整理すべき事項の方向付けをおこない、改正法のガイドラインをしっかりと整備をしていくことが重要と考えている。今後、具体的かつテクニカルな整理をおこなうことになるため、議論をより実践的にすすめるという考え方には賛同するが、いきなり実証事業でおこなうというすすめ方は課題があると思う。

第3回までのWGでの課題・論点を、参画頂いた団体と農水省を事務局とした検討会のような形でしっかり議論し、国のガイドラインの前提となる基礎として、コスト指標の位置づけや統計資料など活用方法なども踏まえながら、作成の対象品目・産地・作型・経営モデルなどの定義、積み上げるコスト項目の定義や数値化の方法、データ収集の方法などを一定程度検討したうえで、実証事業をおこない、その実証事業の評価によりガイドラインを整備するといった丁寧なすすめ方が必要ではないか。国が実施するコスト調査も、ガイドラインとの整合性がとれていれば、より有効な調査となり、無駄なコストも発生しないのではないかと思う。

法案の国会審議の中でも野菜のコスト指標について本当に機能するのかという意見があったが、野菜は非常に複雑であるため、委託事業の応募者も、考え方等の前提が不明瞭な状態では検討・実証が難しいと思う。実証結果が参画の関係団体、コスト指標作成団体、公表者である卸売市場開設者の理解が図れるか、最終的には生産者や消費者に説明できる内容となるかという点が懸念であるため、実証事業の前段で整理をおこなった方が良いのではないか。

基本的な考え方の記載のとおり、コスト指標の作成手法や手順を一定程度確立するためには、少数品目でしっかり基礎固めをして対象品目を広げていくという段階的なプロセスが重要だと思う。このようなプロセスを踏まえることで、生産現場・流通事業者・小売事業者等のコスト指標を活用する関係者が、指標が何を意味しており、どういった内容で、どのような性格を帯びているものなのかを理解して指標を作成・活用していく姿になるよう、我々も議論に参画したい。

なお、今般のお願い事項は、コスト指標作成団体組成後のことについて記載されている。このワーキンググループに出席の各団体は、コスト指標作成団体への参画について、提供するコストデータの守秘義務を前提に概ね理解が得られていると思うが、全て利害関係者にある点も課題になる。各団体は全て利害関係者に位置付けられるため、コスト指標作成団体の組成方法についても、ワーキンググループの構成員や農水省の関係部署で継続して協議する必要があると考えている。

○ホクレン農業協同組合連合会 跡部 種苗園芸部長

基本的な考え方については、まとめていただいたとおりと思う。お願いしたいことについても、

全農と同じような意見である。ホクレンとしてもコスト指標作成団体に協力を惜しまないが、流通上の利害関係者同士が、談合的に定めた、といった誤解を生まないような恰好にするために、直接的が無理であれば間接的、もしくは支援といった形で国の一定の関与をお願いしたい。

一方で、公的な統計資料が都道府県単位でもし無いのであれば、北海道では北海道庁が定めている主要品目ごとの経営指標といったものがあるので、もし公的なデータを使うのであれば、それを使えるが、他の都道府県が同じベースのものを揃えているかは分からないため、ゼロベースで作るのは大変だと思うが、そういったことも必要な作業かもしれない。

積み木方式でコストを積算したものを公表する際に、他のWG品目の公表の仕方と、野菜のWGの公表の仕方と、まるでバラバラのコストの示し方だと、場合分けばかりが増えてしまうので、共通項はあくまで共通項としてベースとなり、それぞれのWGの独自性のものだけ重ねていくような共通の示しの方が、より広く理解されやすいかと思う。なによりも、持続的な食料システムをどうやって維持していくのか、といった根幹が出発点であることを強調していただきたいと思う。

今後のコスト指標作成団体でのよりテクニカルな協議の中については、一例だが、たまねぎ、ばれいしょ、キャベツの説明で肥料費が基準年と比べてマイナスになった項目もあると説明があったが、実は、北海道のたまねぎ、ばれいしょ、キャベツやその他の品目について、大幅なコスト上昇については、少しでも生産者に支援するという形で、ホクレンが一定の利益準備金を取り崩して、肥料対策費というものを億単位で生産者に還元している品目も様々あり、そういったものをどう評価するか、といった考え方の統一もコスト指標作成団体の論議の一つかと考える。

○全国農業協同組合連合会群馬県本部 安達 園芸部長

全体の報告についての意見は全農の発言のとおり。

一点質問だが、コストの指標のイメージについて、肥料についてマイナス5%となっており、令和5年度と比較すると肥料が安くなったというイメージがされるが、世界情勢を見てみると、肥料価格の上昇はウクライナの情勢等の影響があり、令和になってから上昇している。群馬県の農業経営指標は令和2年に出しているの、令和2年と比較して何%上がっており、基準値では何%上がっているという指標を出している。流通事業者や加工事業者も同様だが、基準値が令和5年度だと近すぎるので、令和元年や令和2年まで巻き戻して、そこから比較の増減を見ていただけると、納得していただけるのかと思う。

○デリカフーズホールディングス株式会社 大崎 代表取締役社長

方針やプロセスには特段意見は無い。加工という立場から11ページのコスト指標の試算結果についてコメントさせていただくと、「キャベツ」はカットキャベツとして130g入りの袋でスーパーに売っているものだと思うが、そのような定義や前提条件を明示した方がよい。例えば「首都圏のチェーンストアのスーパーで売られている一般的なカットキャベツ」のコスト指標という形で示されれば適切に想像ができるようになる。

いただいた資料の数字を当社の手元データと突き合わせてみると、かなり乖離がある印象。例えば資料の数字では、人件費が実態よりも低い設定になっている一方、コスト全体では高くなっている。一定規模以上の会社であれば、決算書で把握できる部分もあるので、指標の算出に当た

っては、公的統計数値だけではなく、卸売や加工、小売りなど数社の決算書から数字を把握した方が良いと思う。我々も決算書を開示しているし、算出した数字を我々のデータと照合することで、より適切な指標とするための協力をしていくことも可能。

○野菜流通カット協議会 木村 会長

資料のキャベツのコスト指標の試算は、単位が 130g なので、ワンパッケージを前提で算出したと理解したが、前提が分かるまでは違和感があった。たまねぎ、じゃがいもはキロ単価で示していて、キャベツだけ 130g 単価で示されていると、分かる人しかカットキャベツだと分からないため、キロ単価に統一したほうがよい。たまねぎやジャガイモの価格は試算と近い数字になっている。

カット野菜業界で、表現しづらく、かつ会社によって異なるのは「歩留まり」。キャベツの千切りを作るときの歩留まりは、会社の方針も含めて、大きく各社間で数字が異なる。歩留まり、流通時のロス等もコストとして含めるべきではないか。

この 130g というコスト指標の単位で消費者が分かりやすければそれでも良いが、自分たちは原料を買う側として、産地と買い付けの契約栽培や契約取引を行う上でコスト指標を使う際は、単位はキロ単価であって欲しい。最終的に消費者目線でコスト指標を作ることは理解出来るが、現場で使う側としては、生産段階である程度の単価が見えないと使いづらく、この点はこれから協議をした方がよい。

資料の前半部分に異論は無いが、費用項目の部分など、もう一度関係者へ意見を求めることが必要だと思う。細かく詰めるというよりは、分かりやすい形になるように、しっかりと論点を整理した方がよい。

資料 P 6 の実証事業について、川上から川下まで全部の関係者が入ってないとダメという認識。守秘義務契約を守ってくれれば、加工するコストのデータを提供することについて我々は協力していけると思う。その上で、川上から川下までの関係者が全て必要となると、例えばコンソーシアムを作るのであれば旗振り役が必要であり、動きづらいと思う。最初は各団体で分かれて指標作成の考え方等を検討し、その後まとめていくのが良いのではないかと。すぐに取り掛からないといけないことだと思うが、どういう形でコンソーシアムを作るのかというのを、このWGで議論をした方がよいと思う。

○全国中央市場青果卸売協会 出田 専務理事

前回申し上げたことの繰り返しではあるが、市場で掲示される、生産段階と集出荷段階のコストが適正なものであるかどうか、我々では判断出来ない。利益が相反するところがあるので、客観性や中立性の担保のためには行政側の関与が必要なのではないか。

現段階からもう一段検討を深めるには行政側が主体的に関与するWGでの議論が必要である。

細かい話だが、生産段階の労務費について、毎月勤労統計は全国又は都道府県一律のデータのようなので、農村部の賃金の実態を反映したものなのかどうかについて検証が必要。

○主婦連合会 木村 常任幹事

資料で試算されているキャベツとはカットキャベツであり、単位の 130g は標準的な一袋の分

量かと思うが、分量は変動もあるため、コスト指標の単位はきちんと統一する必要。またキャベツと表記されると、一玉のキャベツを想像してしまうので、カットキャベツに名称を変えた方が、誤解が少ないと思う。

指標の根拠や内容について、範囲は全国统一でやるのか、首都圏でやるのか、それとも関西圏でやるのか、いくつか指標があるのか、そのイメージがまだつかめない。数字が独り歩きして、面白おかしく報道されてしまうことで、消費者が誤解してしまい、なかなか理解が進まないということがあるため、注意した方がよい。

公表のイメージについて、資料のP7・8のようにグラフ的なものなのか、それともP9以降のように表として公表するのかお伺いしたい。

コスト指標の数値の根拠を知りたいので、ある程度細かいものも見られるような形で公表してもらえるとありがたい。

○全国消費者団体連絡会 郷野 事務局長

野菜のコスト指標の作成について異論はない。

P4にある、コスト指標の公表の範囲について、消費者が理解できるように分かりやすく透明性のある公表をお願いしたい。P7～8の資料はイメージしやすく、分かりやすいが、議論のあったキャベツの単位等には違和感があったので、整理して公表することが必要。HPだけではなく、動画配信サービスについても広く周知する手段として有効かと思う。公表に当たっては、コスト指標と価格は違うという事をしっかり伝える必要がある。消費者が誤認しないような公表方法を検討していただきたい。

指標を作るとともに、コストが出来る限り削減するような様々な方策も取り組んでいただきたい。例えば直売所の多様化、オンラインストア、規格外野菜の活用、加工品の開発等、時代に合ったやり方でコストを見直すことが必要。人材の育成、労務費の削減、品種改良、作業効率のアップなど、可能であればノウハウも共有していただきたい。国や自治体の補助金が有効活用できるように生産者に丁寧な情報提供しながら、きめ細かい支援を続けていただきたい。

どんなに細かい試算があっても、細かいデータがあっても、消費者には目の前の価格が全てである。販売価格を受け入れることが出来るか、買うか買わないかは消費者の選択となる。値頃感には消費者それぞれに基準がある。消費者物価指数、個人消費支出、可処分所得等、消費者の購買力についても検討していただければと思う。

○日本スーパーマーケット協会 江口 専務理事（協議会構成員としての出席）

P4までの記載に異論はない。小売業の問題は、コストの内容をどこまで把握できるかということである。営業成績上は「野菜」や「果物」というカテゴリーまでしか把握していない。売上だけは、POSデータがあり単品で出たりするが、コストについてはなかなか算出しづらい。どういう計算式で単品のコストを算出するのかルールを一回しっかり作っていく必要がある。

上場企業であれば決算書で販売管理費が出ているので、そういった決算書からコストを算出する方法と、公的数値を使う方法とを比べてみる価値はあると思う。

○日本チェーンストア協会 牧野 専務理事（協議会構成員としての出席）

P 4の関連意見について、コスト指標はコストの指標であって価格の指標ではない、に、ましてや最低価格ではない、というのもぜひ加えていただきたい。

キャベツの店頭価格が400円になった時には、キャベツの輸入が増えた。輸入品との競争については、この枠組みの中でどう考えていけばよいか。

コスト指標が価格交渉のトリガーになるというのは、コストの変動幅をもってトリガーとすることであって、コスト指標の実額を下回っていることがトリガーという訳ではないという認識。コスト指標は平均的な数値になる見込みであり、この数値を下回っているからといって協議してくれというのはやりすぎではないか。